

JSSニュース

ジャパニーズ ソーシャル サービス

Japanese Canadian Cultural Centre 2nd Floor, 6 Garamond Court, Toronto, Ontario M3C 1Z5

電話: 416-385-9200 ファックス: 416-385-7124 Eメール: general.jss@gmail.com ウェブサイト: www.jss.ca

毎年恒例、6月のトロントチャレンジ での活動資金集めにご協力を!



トーク須山さん

デービッド・池田

トロントチャレンジは6月10日に開催され、JSSは今年も地域の協力団体として参加します。この毎年行われる、JSSにとって大変重要な資金集めの活動は今年で12年目となります。私たちはこの催しを通じて昨年14,500ドルを越える資金を集めました。

多くの皆さんがご存知のことと思いますが、集められた資金の大部分は(今年のレースが行われる時には)86歳になるトーク須山さんが集めたものです。トークさんは人事委員会のメンバーで、長年にわたってトロントチャレンジに参加して来られました。トークさんと共に、ミッツ伊藤さんも、JSSを支援する友人として参加しておられます。

今年のウォーク・ランナソンは、晴雨に関わらず6月10日に挙行されます。トロントチャレンジは、トロント市が主催する、市内にあるJSSのような、高齢者や援助が必要な人々のために資金を集める催しです。この催しでは、メトロホールを出発した5kmのマラソン、5kmと1kmのウォーク

がダウンタウンで行われます。参加者はそのどれかに参加するのです。トークさんのようなウォーカーは、レース前に市に参加料をそえて登録し、自身の参加、完遂を条件にJSSのための資金提供の約束を取り付け、資金集めをするのです。

トークさん、ないしはその他のJSSからの参加者を支援される方は、Japanese Social Services宛の小切手の備考欄にThe Toronto Challengeと書き加えて、JSS (6 Garamond Court Toronto, ON M3C1Z5)に郵送して下さい。これまでと同様にJSSは、集めた資金をすべて市に報告し、JSSの活動のための収入として算入します。\$10以上の寄付についてはJSSが課税免除の領収書を発行します。

またウォーカーソンに参加されたい方は大歓迎ですので、登録書類(JSSに準備してあります)に必要な事項をご記入の上、成人の参加料\$20を添えて参加申し込みをして下さい。寄付のための予約用紙が準備されています。この場合、JSSのための資金募集であることを明記してください。JSSの住所はニュースレターの1頁目に表記されています。申し込み用紙や関係する情報などはトロントチャレンジのウェブサイト(www.toronto.ca/challenge)に掲載されています。繰り返しますが、皆さんのご支援に深く感謝致します。



Japanese Social Services

A non-profit, charitable organization providing culturally relevant services in Japanese and English

2012年
春夏号

JSS会長からの2011年度の活動報告

前川威男

この紙面を借りて、JSSの2011年の活動について簡単に触れさせていただきます。JSSがコミュニティに向けて行っているサービスは、大きく分けてカウンセリングとプログラムの二つです。カウンセリングは、自身の背景にある日本の文化や言語によって、生活上の何らかの不都合を経験しておられる方々と、解決のための方策を一緒に考え、必要に応じて可能な手助けをすることで、ご自身が不都合を克服する事ができるようになることを目的に進められる活動です。またプログラム活動は、同様の理由で生活上の不都合を持っておられる方々などに、生活技能や情報の提供、コミュニティ活動への参加ないしは活動できる場所や機会の提供、情報交換の機会の提供、さらに生活上のいろいろな支援を行う活動です。

昨年JSSが行ったカウンセリングは、年間で564人の方々を対象に進められました。うち女性が407人、男性が157人でした。年齢は25歳から64歳の成人が360人と多くを占めますが、25歳以下の方々が合計144人、さらに65歳以上の高齢の方々も60人と、少なくない数です。特にこの数年、社会の要請とJSSの態勢が影響したためか従来以上に25歳以下と65歳以上の方々の増加が目立っています。不都合の内容は極めて多様ですが、多くを占める順序で見ると、心の健康、家族ないしはカップル関係、いろいろな不都合に伴う法律関連、そして夫婦関係に関わるものが多く扱われています。

一方プログラムは、英語習得の第一歩を踏み出しているため英会話クラス、フレンドリービジティング、各種の子育てワークショップ、お母さんたちのためのセルフヘルプグループ、高齢者グループ集会昼食サービス、クラフト作り、コミュニティ活動参加プログラム、さらにトロント版の歳末助け合い運動や各種のセミナー、ワークショップなど多彩で、いろいろな形で参加された方は年間で2880人を越えました。

なおJSSは昨年、東日本大震災とそれに伴う津波被害を受けた地域の皆さんのために、DPI (Disabled People's International)を通じ、当地で募集した義援金を身体障害者支援のために送金しました。

JSSの財政はこの数年間、支出が超過状況でしたが2012年は僅かですが収入が支出を上回りました。JSSの財政はトロント市の補助金、トロント総領事館の委託業務、トロント商工会からの寄付、そして個人や団体、さらには多くの基金による寄付、さらには個人ないしは団体の賛助会費などによって支えられています。昨年は予算上一昨年を引き続く支出超過を見込んでいたのですが、例年の補助金、援助金に加えて、個人による多額の寄付があり、さらに毎年寄せていただく多くの基金からの寄付で僅かながら収入が支出を上回りました。JSSの苦境をお心にかけてくださいました皆さんに厚くお礼を申し上げます。

2012年に入り、5月に開催を予定している年次総会で承認いただくことを予定している理事の編成は、従来空席になっていた資金確保のための委員会担当に山本順子さん、会員獲得委員会担当にRuth Sumiさん、理事会秘書としてDavid Ikedaさん、さらに従来の役割分担である副会長兼プログラムおよび人事担当の傳法さん、人事並びにカウンセリング担当のToku 須山さん、財務および人事担当Lui 淳子さんに私を加えて構成します。日常の業務は公家カウンセラーとオフィスの清水さんに多くのボランティアを加えた態勢で推進しますので、変わらぬご支援をお願いいたします。

なお、従来カウンセリング指導担当をお願いしていたJean Peasahさんが退任を希望しておられるので、代わってこの大変に重要な、かつ困難な役職に就任していただける方を探している所です。彼女の多年にわたる御貢献に感謝を致します。

最後に、将来を展望するとき、この成功裡に終わった今年の成果にさらに積み上げが図れ、皆様の信頼と支援を得る事ができるよう祈念します。



Jean Peasah, former Board member and counsellor

JSSのウェブサイト

「www.jss.ca」には、私たちの活動に関するよりたくさんの情報が掲載されていますので是非ご覧下さい。

JSSカウンセラーより、日本からの 若者へのアドバイス

公家孝典 (JSSカウンセラー)

毎年、数千人にのぼる若者達がワーキングホリデービザや学生ビザにより、トロント近郊で働いたり、英語を学習したり、海外生活を経験する為に日本からやって来ます。ほとんどの滞在は、英語に自信をつけコミュニケーションスキルを磨いたり、素晴らしい文化的な体験をする絶好な機会となります。しかし、一部の人のためには、悪辣な家主や職場での雇い主の餌食になり、辛い体験をすることにもなります。残念なことに、一部の人は経済的な損失を被るだけでなく、犯罪や性的虐待の被害者になることもあります。

トロントの日系コミュニティにおけるJSSの知名度はそれほど高くなく、特にワーキングホリデーや学生などの短期滞在者でJSSの存在や活動について知っている方はそう多くはないと思うのですが、それでも自分だけでは解決できないようなトラブルや問題に直面すると、ロコミ又は警察、病院、学校など他の機関からの紹介により、JSSにコンタクトしてくるトロントに短期滞在中の若者はかなりの数に上ります。トロントには、問題が起こったときにその問題の種類に応じて“英語で”相談を受け付けてくれる政府機関やNPOがたくさんありますが、日本語で対応できるカウンセリング&社会福祉分野の専門性を持ったNPOはJSS以外にはないので、たくさんの日本人がJSSにサポートを求めて相談にいらっしゃるのは当然といえば当然であります。

彼らからの相談内容は多岐に亘り、しばしば、彼らからの相談内容はJSSの取り扱い業務にあてはまらないものもあるのですが、もっとも頻度の多い問題は二つのカテゴリーに分けられます。即ち、家主と借家人の問題が一つ、もう一つは雇用に関する紛争です。今回は、日本の若者が直面する典型的な住宅問題に焦点を当ててみましょう。

例えば、the Residential Tenancy Act (RTA: オンタリオ州の賃貸契約に関する法律)によれば、基本的に家主がテナントが入居する際に請求できるのは“最初の月と最後の月の家賃”のみなのですが、悪辣な家主は日本人の借家人から「セキュリティ・デポジット」や「キー・デポジット」と称して数百ドルを請求することが多々あります。残念ながら、借家人が「セキュリティ・デポジット」は違法であると気がついた時には後の祭りです。何故なら、一旦払ってしまったものを取り返すための法的な手続きには時間がかかり、ほとんどのケースでは、短期滞在の彼らの滞在期限までに解決するのは無理だからです。解決する前に、被害者は既に帰国への機上と言うわけです。

* (セキュリティのしっかりした高層のアパートやコンドミニアムでは、正面玄関、駐車場、ランドリールームなどのカードキーを管理するために、数十ドルのキーデポジットを請求されることがありますが、これは退去時にカードキーと引き換えに返却されます。)

また、ワーキングホリデービザや学生ビザでの滞在者の多くはいわゆる「ルームレント」や「シェアハウス」という賃貸形式を利用しますが、その際、テナントが家主とキッチンやお手洗いを共有しなければならない住居に引越す場合には、特に注意が必要です。何故なら、この場合にはthe Residential Tenancy Act は適用されず、何か賃貸にかかる紛争が起こった場合にその解決がいっそう難しくなるからです。

さらに暗い側面として、家主による性的犯罪やセクハラの問題があります。毎年、JSSはワーキングホリデーや学生ビザの女性が家主により性的暴行やセクハラを受けたケースを多数扱っています。ほとんどの場合、被害は警察に届けられていません。恥だからと言って虐待を公にすることなく帰国して、不幸な事件を忘れようとする日本人女性が多いようです。この文化的背景を、まるで悪辣な家主が知っていて、それを悪用している印象さえ受けます。恐らく、JSSに持ち込まれるケースは「氷山の一角」で、かなり沢山の日本人女性が泣き寝入りしていることは想像に難くありません。

カナダは確かに素敵な国であり、トロントは安全な都市であると言う評判があります。

しかし、それは誰もが良い人で、どんな場合も安全であると言う意味ではありません。従って、カナダ・トロントを訪問・滞在する日本人も、出発前に、必要な情報収集をするなどホームワークが必要であると感じます。

日本人はおとなしくて文句を言わないと思われています。この日本人の特性を悪用する人がいると言うことに留意し、トロントに滞在する日本人の皆さんが安全で楽しいトロント生活を送られることを願ってやみません。



お知らせ：

ジャパニーズ ソーシャル サービス (JSS) 年次総会

2012年5月23日 (水) 午後7時より

於日系文化会館 (Wynford Room)

(6 Garamond Court, Toronto)

軽い飲み物の準備があります。

5月23日のJSS年次総会に是非ご出席下さい

JSS年次総会が2012年5月23日7時から日系文化会館のWynford Room(受付を通り越したホール)で開催されます。以下は仮の議題です。興味深い事項の一つは新しい「組織の使命」採択の可能性です。前川威男氏を先頭に、マドコロデニス氏の補助により、JSSのサービス及び活動内容を最上に要約出来るよう、理事会は数ヶ月をかけて討論を交わしました。「組織の使命」についての討論は、下記に挙げた議題の草案の中の、「運営の検討」の前に、特別案件として提案する予定です。

議題

1. 総会開会と議題の採択 2. 書記の指名 3. 2011年
年次総会の議事録の検討と採択 4. 運営の総括 5. 財務報告
6. 会計監査報告と2012年度の会計監査人の指名 7. カウン
セラーの報告 8. プログラムの報告 9. 各委員会からの報
告 (募金、人事、パブリック リレーションズ、メンバ
ーシップを含む) 10. 今年度の理事の推薦と選挙 11. 閉会
の辞 (退任理事への謝辞を含む) そして、最後に、最も重
要な 12. ボランティアへの感謝状授与式

総会の後、理事により、軽いリフレッシュメントが用意
されています。

皆様のご出席を心よりお待ちしております。皆様が、引
き続き私どもの活動に関心を寄せ、サポートして下さるこ
とが、私どもの活動を存続する上で大きな力となっており、
ここに深く感謝いたします。

総会参加資格に制限はありませんが、総会での議決権は会
費を納入済みの現会員に限られます。会員登録及び更新の為、
会費納入をお忘れになりませんよう、お願い申し上げます。

JSSニュース謝辞

編集：デビッド・池田

日本語セクションの編集に関し多
大なるご助力を頂きました日系ボ
イス英語編集者のキャサリン・美
香・福間さんへ感謝いたします。

記事をご執筆頂いた前川威男氏、
公家孝典氏、および、このニュー
スレターの発行に関しご助力頂き
ましたすべてのスタッフ・ボラン
ティアの皆様へ感謝いたします。